

令和6年度 宮島学園第2回学校運営協議会

令和6年10月29日(火)18:00~19:30

etto 宮島交流館

(参加委員) 岡田 好江 菊地 寛 木村 泰造 平山 真明 内山 健
山本 卓士 白水 浩 平岩 透 (欠席1名)
(学 校) 伊豆田 智子 坂田 昇 橋本 浩敬
(教育委員会) 石井 憲幸

1 会長あいさつ 学校長あいさつ

2 議事

○ 令和6年度学校評価中間報告について

意見・質疑

- (委 員) それぞれの目標に対して、子どもたちが自分で達成できたかをアンケート等で自己評価してそれを集計しているのか。
- (学 校) そうである。このアンケートをとる以前には、ブロックごとに集会をして目標を達成するためにどうすればよいかを考え、教職員が指導助言したりしている。
- (委 員) その集会などで教職員が子どもたちの評価をしているのか。
- (学 校) そうである。
- (委 員) 私自身が宮島学園の子どもたちとかかわる機会が何度かあった。先日、中学校2年生と3年生のグループが町家のことについてインタビューに来られた。3年生が少なく2年生が多いグループだったが、3年生がリーダーシップを発揮して動いており、こちらが返答に困るような鋭い質問があったりして、積極的でよいと感じた。
- (委 員) そのインタビューの時には事前にアポイントがあったのか。
- (委 員) 代表生徒が事前にアポイントの電話があった。生徒のほうから積極的に動きがあった。
- (委 員) 素晴らしいと思う。今は、私のところに大学生がアポイントも取らずに急にやってくることもある。事前のアポイントをとるというしつけは大事である。人として相手に敬意を表する気持ちを植え付けていくことが大切である。インタビューに行った生徒は素晴らしいと思う。
- (委 員) そのときも大きな声であいさつしてくれてとても気持ちがよかった。宮島を一緒に共有していると感じた。
- (委 員) 私は中学生の職場体験を受け入れた。去年受け入れた生徒は体験を終えるときに「来年もよろしくお願いします」とあいさつした。「来年も」という相手への思いを伝えることは素晴らしいと思った。今年受け入れた生徒も「次の学年が来るのでよろしくお願いします」とあいさつしてくれた。とてもうれしく思った。次の学年を思いやる気持ちがよいと思った。

- (委 員) 宮島の子どもたちは昔から優しくて温かくて思いやりがあると思う。一人ひとりが地域から大切にされていることが要因の一つだと思う。
- (学 校) 交流している他県の学校の校長先生から、小規模の学校では消極的な子が多いという話を聞いた。しかし、本校の子どもたちは積極的な子が多い。本校の宮島学習が生きているのだと感じている。
- (学 校) 後期生が「宮島未来プロジェクト」という学習の中で、個々の設定した課題に対して調査を行い、発表用の資料を準備して3学期に発表することとしている。お時間があればぜひ参観に来ていただきたい。
- (委 員) 数年前の学園生の中に島内にコンビニエンスストアを誘致したいという発表をしたことを思い出した。現在島内にコンビニエンスストアができています。
- (委 員) 中間評価で目標値を大きく達成している項目があるが、この目標値 70%というのは学校が年度当初に設定した数値か。
- (学 校) そうである。昨年度の結果も考えながら教員が設定しているが、この評価は子どもたちがしているので、我々教員と子どもたちの目標の認識に違いがあるため、途中で大幅に高い結果になってしまい、見通しが甘かったと反省している。よって、達成度が高かったからといって改善しないのではなく、実態を分析してよりよくなるように改善方策を考えて取組を進めている。
- (委 員) 学級のムードで考えが深まったり広がったりすることがあるかもしれない。
- (委 員) 結果が出た後がもっと大切だと思う。学校で学んだことを家など生活の中で活用できることがその人をもっと成長させることにつながると思う。だから、学校でできて終わりではなく、「家でも学校外でも出来たら助かるよ」などの助言や支援をしてほしい。
- (委 員) 「さらによいあいさつ」という文言があるが、これを先生方はどう捉えられているのか。
- (学 校) 心のこもったあいさつをしよう、ということで、朝会などで画像を見せながら説明した。ブロックごとに目指すあいさつの仕方を変えて説明している。達成したら壁に貼ったりして評価している。
- (委 員) 「あいさつが大切」と学校は伝えていると思うが、なぜ大切かというのを学校がどのように子供に説明しているのか。
- (学 校) 感謝の気持ちを相手に伝えるためにあいさつが大切だと指導している。
- (委 員) あいさつをしてもらったらうれしくなる、明るくなるので大切なのだという説明の仕方だと小さい子どもでも理解できると思う。あいさつをすることでその後のコミュニケーションが取れていくのだということを子どもたちに伝えてほしい。
- (学 校) あいさつするよう指導するだけではなく、その意味や大切さなどを子どもに伝えて指導するよう教職員に指導している。今後は子どもの中からよいあいさつしようと声が上がっていくとよいと思っている。
- (委 員) 毎月通学路のあいさつ運動に参加している。4月当初は元気がないと感じていたが、徐々に元気なあいさつを返してくれるようになったと感じている。子供たちが成長しているのではないかと思う。

- (委 員) 校長や教頭が先生方を褒めるときにはどのようにしているか。私は所属の部下をどのように褒めればよいか悩むことがある。
- (学 校) それぞれの先生の強みを褒めるようにしている。本校の先生は子どもを大事にするので、子どもが元気なのは日頃先生が子どもに向き合っているからだということを伝えている。先生方のそれぞれの強みを合わせれば輪になってよくなっていくという考えで動いている。校内を見て回っているときに、よい動きだと感じたことはその先生にその日のうちに伝えるようにしている。
- (委 員) よい動きだと伝えるのは一対一で行っているのか。
- (学 校) そうである。廊下で出会ったときに伝えたり、わざわざ近くに行って伝えたりとその日のうちに伝えている。管理職にも弱い部分があるので、そこを先生方にフォローしてもらい感謝の言葉を伝えることもある。また、先生方がやりきったことについては感謝の言葉を伝えるようにしている。
- (委 員) 昔と比べて先生方が休みやすくなっていると感じている。子どもから今日先生が休みだったということを時々聞く。先生が休んでも学校が回るというのができているのだと感じている。
- (学 校) 休んだりしてフォローしてもらったときには、別の場面で先生方をフォローするよう伝えるようにしている。一人の先生に負担をかけないように、お互いにフォローしあえる関係を職場の中でつくっていくことを大切にしている。
- (委 員) 運動会などの行事で、私は数年かかわらせてもらっているが、去年はこうやってうまくいったのに今年は違うのかと思うことがあった。また、例年通りということで進んでいくときに、その年に新しく担当になられた先生が連絡不十分で困っているのを見たことがある。毎年実施することなどは毎回反省会をして次年度につなげたり、困る先生が出たりしないように先生方のコミュニケーションを日ごろからしてほしい。先生方が和気あいあいとする姿が子どもにも伝わっていくと思う。

○ 第1回の熟議で出てきた意見や提案について

意見・質疑

- (学 校) 熟議の記録を見ると、どのグループからもやったほうがよいと思うことが複数出されているが、その中に「いつするか」「誰がするか」が出されていない。このままだと誰も動かない可能性があり、実現できないのではないかなと思うがどうか。
- (委 員) 熟議の日が休校になってしまったので、学園生の保護者の参加が全くなかったのが残念だった。またいつか地域と先生と保護者が一緒に熟議を行う機会があるとよい。
- (委 員) 学校はいち法人なので、学校単独で「お願いします」ということは難しいと思う。やはり学校とPTAが伝統文化を扱うというのが一番手っ取り早いと思う。町内の方は、お願いされたら協力してくれると思う。町内の方から「やりましょう」ということは言えないと思う。
- (委 員) 今小学校は家庭訪問を行っているのか。

- (学 校) 今は行っていない。必要に応じて家庭訪問をする時がある。
- (委 員) いろいろなことに対してすべて学校に責任を押し付けるわけにはいかないと思う。子供の成長のベースになるのは家庭である。その家庭を学校が知らないとうまくいかないことが出てくると思う。学校が家庭を知り、保護者が学校を知ることによって協力できることが増えるのではないかなと思う。
- (委 員) 学校の教員と地域の者との連携をとる機会が少ないと思う。宮島は他の地域と違うところがあるので、そこを理解して進めていかないといけないと思う。最近は島外から通ってくる子どもが増えてきている。中学校から入ってくる子どもも増え、その子は宮島での生活が3年間になる。そういう子どもにも宮島に思いを馳せることができるようにしていくために協力していきたい。
- (学 校) これまでも地域の方に多くのことを協力してもらっている。本当にありがたい。今は子どもたちが地域の方にいろいろしてもらっている状況だが、今後は子どもから地域の方に感謝を伝えたりする場面の設定についても考えていきたい。
- (委 員) 先日廿日市市が「子どもが主役のまちづくり宣言」をされた。宮島の事業者も積極的に学校にアプローチして協力できていけばよいと思う。
- (委 員) 地域行事がわからない保護者がいるので、PTA役員の人と学校の先生だけで取り組むことがあればできれば数人の保護者に来ていただいたり、行事のカレンダーを作って周知したりすれば参加して下さる保護者が増えるのではないかな。また、宮島支所や資料館などをもう少し活用していけばもっと活性化するのではないかな。
- (委 員) 現在、宮島支所や資料館も行事や子どもの学習に協力していただいている。
- (学 校) 島外在住であっても、宮島に魅力を感じておられる保護者が多く、地域行事にも島外から参加される人も増えている。また、卒業生が多く協力してくれている。今後も在籍する子どもが増えていくと思うが「宮島に思いを馳せる」ことができる子どもが増える取組を行っていきたい。

3 副会長あいさつ

